

○目的：子どもたち一人ひとりが自らの強みを知り、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力、問題発見・解決能力等を向上させ、これからの社会を生き抜く力を着実につける。

○実施日：令和 8 年 4 月 22 日～30 日 ※期間内で学校が実施日を決定

○対象：小学校、義務教育学校前期課程及び支援学校小学部の第 5・6 学年

○実施児童数：5 年生 64,699 人、6 年生 65,043 人（合計：129,742 人）

○内容：5 年生 国語、算数、理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
6 年生 理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート

○提供資料：「ウォッチシート（個人票）」
【記載内容】

・アンケート結果からわかる児童一人ひとりのよいところ

・各教科とわくわく問題（教科横断型問題）の解答状況から見られる、児童一人ひとりのよいところ

・各教科とわくわく問題（教科横断型問題）のすべての問題について、児童一人ひとりの正答状況とそれに合わせたアドバイス

【わくわく問題（教科横断型問題）】小学校 5・6 年実施

文章や図・表・グラフ・ホームページ等を読んで、自分の考えを書く問題。答えは 1 つではないものもある。

分類		区分	平均正答率 (%)
			R 8 5・6 年
観点	A	図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	63.0
	B	図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	58.1
	C	図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	67.2
	D	図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	71.0
	E	興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	78.4
出題内容	問題を とらえる	文章から読み取る	57.6
		会話から読み取る	58.9
		図や表から読み取る	67.3
	伝える	資料の情報を整理して伝える	60.4
		自身で考えたことを伝える	71.0
		理由や根拠を明確にして伝える	67.2

良好

- 資料から内容を読み取り、その内容を表に整理することができていた。
- 相手に興味・関心をもってもらうために、自由な発想で表現することができていた。

課題

- 複数の資料をもとに問われている内容を論理的に思考し、条件に従って表現することに課題が見られた。
- 資料や会話の内容を関連付けて、適切に読み取ることに課題が見られた。

【これからの学習に向けたアドバイス】

★問われていることが何なのか、印をつけたり線を引いたりしながら、問題文を読むようにしましょう。

★複数の資料が提示されたときは、それぞれの資料が何について表しているかを考え、目的に応じて必要な情報を選択し、整理して使いましょう。

★資料の情報を整理して、相手にわかりやすく、伝えたいときは、言葉だけでなく図や表も使って表してみましょう。

【国語】 小学校 5 年実施

分類		区分	平均正答率 (%)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	69.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	75.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	72.5
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	—
		書くこと	67.8
評価の観点	知識・技能	読むこと	—
		思考・判断・表現	70.3
			67.8

文中の助詞から正しい使われ方をしているものを選ぶことや、文を正しく理解し、指示語が指示する内容を捉えることはよくできていた。

一方、文と文の意味のつながりを考えながら、適切な接続表現を使って二文を一文で書くことや、主語と述語の関係に注意して述語の部分の正しく書くことに課題が見られた。

【これからの学習に向けたアドバイス】

★文や文章を読むときや書くときは、

【主語】「誰が（何が）」「誰は（何は）」

【述語】「どうする」「どんなだ」「なんだ」

に気をつけましょう。主語と述語を意識することで、文の意味を正確に捉えることができます。

★授業で学んだ言葉や、本を読んで知った言葉を使って、文章を書いてみましょう。

【算数】 小学校 5 年実施

分類		区分	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域等	数と計算		39.3
			52.1
		測定／変化と関係	54.0
	データの活用		64.4
評価の観点	知識・技能		46.4
		思考・判断・表現	63.0

示されている情報をもとに必要な時刻を求めることはできていた。

一方、小数を用いてある量の何倍かを求めることや、一方が変わるともう一方も変わる二つの数量の関係を記号を使って式で表すことに課題が見られた。

【これからの学習に向けたアドバイス】

★「何倍」を求めるときは、何と何を比べているのかを整理し、もとにするのはどちらかを考えましょう。また、図や具体物を使って考えてみましょう。

★一方が変わるともう一方も変わる二つの数量の関係を式にあらわすときは、まず二つの数の関係や変化の仕方を具体的な数字で考えましょう。次に数字を記号に置きかえて考えてみましょう。

【理科】 小学校 5・6 年実施

※大問 2 問のうち 1 問は 5・6 年共通。1 問は別問題を実施。

5 年	分類	区分	平均正答率 (%)	6 年	分類	区分	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域等	エネルギー	エネルギー	52.8	学習指導要領の領域等	エネルギー	エネルギー	62.4
		粒子	78.7			粒子	63.7
		生命	57.3			生命	54.1
		地球	60.8			地球	68.4
評価の観点	知識・技能	知識・技能	52.8	評価の観点	知識・技能	知識・技能	51.9
		思考・判断・表現	68.9			思考・判断・表現	70.9

暖かい空気は上方へ流れるという性質や、日陰の位置は太陽の位置によって変わることは理解できていた。

一方、昆虫の体のつくりや、乾電池のつなぎ方の理解に課題が見られた。また、温度変化によってどの水溶液から溶けている物が取り出せるかを考えることに課題が見られた。

【これからの学習に向けたアドバイス】

★「昆虫の体のつくり」や「乾電池のつなぎ方」など、理科で学習したことを、実体験と結び付けて、考えたり説明したりしましょう。

★ふだんの生活の中で見たり感じたりしたことを、理科で学習した内容とつなげて考えてみましょう。「なぜ？」と思ったことについて、その理由を理科の知識を使って調べてみましょう。

令和8年度 小学生すくすくウォッチの結果概要 ～アンケート～

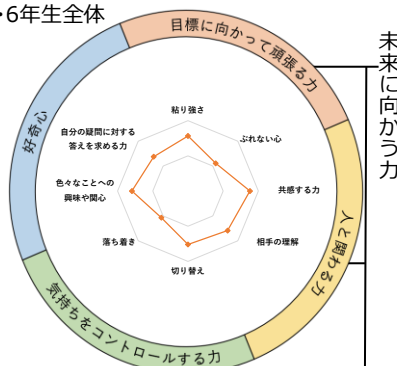
「未来に向かう力」と「好奇心」について

子どもの将来には、テスト等で測ることのできる「学力」の他に、非認知能力が大事です。非認知能力について、大阪府教育庁では、「目標に向かって頑張る力」、「人と関わる力」、「気持ちをコントロールする力」の3つとし「未来に向かう力」（※）として定義しました。また、新たな知識や経験を探究する原動力となる「好奇心」も大事と考え、アンケートによりその状況もたずねました。

大阪の子どもの全体の傾向として、「人と関わる力」が他の力に比べて高い傾向でした。「目標に向かって頑張る力」は、「粘り強さ」は他の観点に比べて高い傾向であるものの、「ぶれない心」が他の観点に比べて低い傾向でした。「気持ちをコントロールする力」は、「切り替え」は他の観点に比べて高い傾向にあるものの、「落ち着き」が他の観点に比べて低い傾向でした。また、「好奇心」のうち、「いろいろなことへの興味や関心」は他の観点に比べて高い傾向でした。

「参考」(※)『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』リーフレット ダウンロードページ
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/5937/hi-ninchi-web-bara_part2.pdf

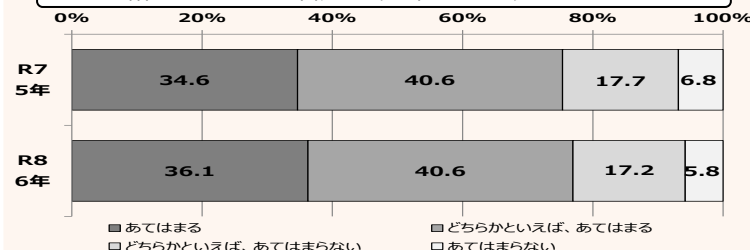
5・6年生全体



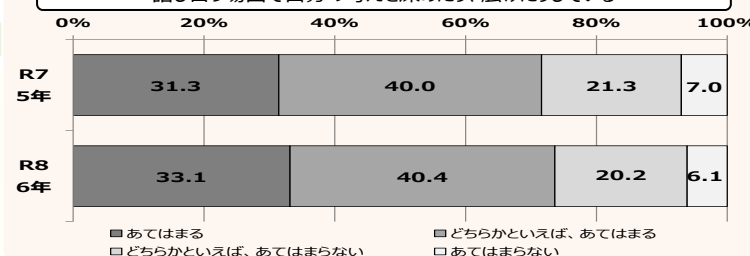
今年度（6年生時）と昨年度（5年生時）との同一集団の経年比較

※ その他・無回答の数値は示していません

話し合いをするとき、自分の意見と他の人の意見を比べている



話し合う場面で自分の考えを深めたり、広げたりしている

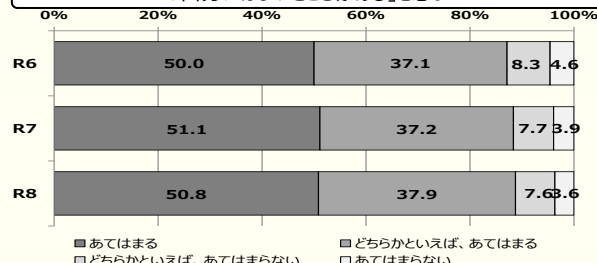


児童アンケート（5・6年生）令和6年度から3年間の経年比較 ※ その他・無回答の数値は示していません

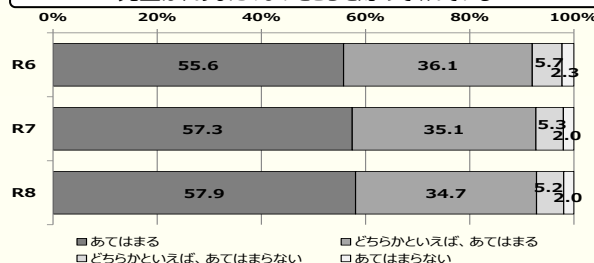
〔肯定的な回答の割合が増加した項目〕

〔課題と考えられる項目〕

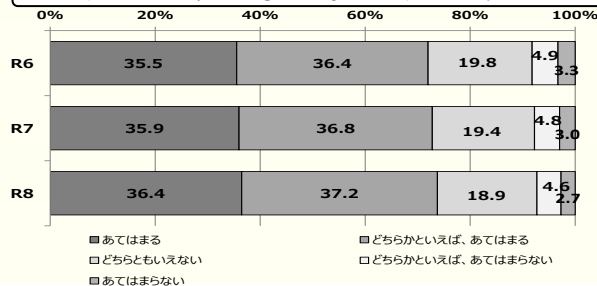
「自分にはよいところがある」と思う



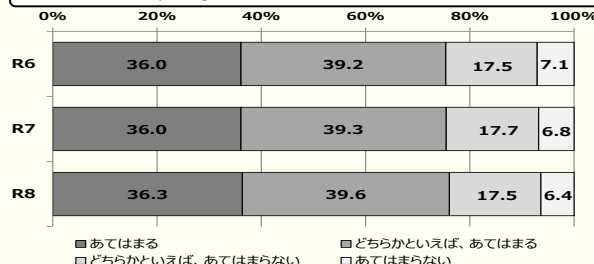
先生は、あなたのよいところを認めてくれている



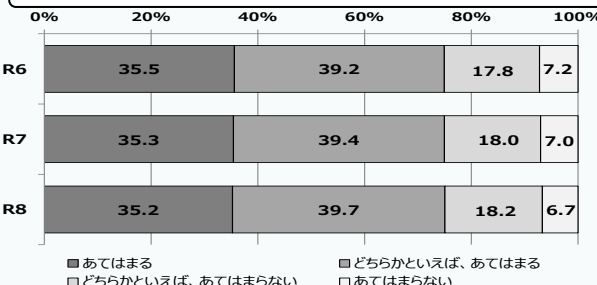
人と対立しても、相手の考えや気持ちを理解しようと努力する



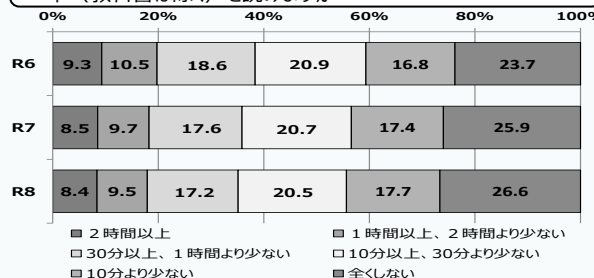
その時間に学んだことについて、ふり返りをしている



文章を読むとき、どこが大事なところか考えながら読んでいる



ふだん（月曜日から金曜日）1日に、およそどれくらいの時間、本（教科書は除く）を読みますか



児童アンケートの結果から、「自分にはよいところがある」「先生は自分のよいところを認めてくれている」と思っている子どもや、「人と対立しても、相手の考えや気持ちを理解しようと努力する」子どもの割合が、この3年間で増えてきています。自分のよさを認識し、先生から認められる経験を積み重ね、自分自身を大切にするとともに、相手の考えや気持ちを理解しようとする姿勢も育まれていることが伺えます。また、「その時間に学んだことについて、ふり返りをしている」と回答した子どもの割合も増加しています。学習内容をふり返ることは、学びを深めるとともに、次の学習につなげる上でも重要です。

一方で、「文章を読むとき、どこが大事なところか考えながら読んでいる」という質問については、この3年間で大きな変化は見られませんでした。文章を正確に理解するためには、文章全体の流れやつながりを捉えながら、筆者が最も伝えたいことは何かを意識して読むことが大切です。また、「1日にどれくらいの時間、本を読みますか」という質問では、10分以上読書をする子どもの割合が年々減少する一方で、全く読まない子どもの割合が増加しています。読書は知識を得るだけでなく、多様な言葉や表現に触れる貴重な機会でもあります。読書を通して内容を正確に読み取る力や、自分の考えを適切に表現する力を育み、より豊かな言語活動につなげていくことが期待されます。

今年度の6年生の回答を昨年度の5年生時の回答と比較すると、「話し合いをするとき、自分の意見と他の人の意見を比べている」や「話し合う場面で自分の考えを深めたり広げたりしている」と回答した子どもの割合が増加しています。自分の考えをもつだけでなく、相手の意見も理解することに努め、学びを深める姿勢が育ってきていることが分かります。対話を通して学ぶことの意義や良さを感じられる授業の中で、さらに自分の考えを深めたり広げたりしましょう。

■ 今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

■ 小学生すくすくウォッチの問題および解答については、以下のURLよりご覧になれます。

○ 令和8年度小学生すくすくウォッチ

https://www.pref.osaka.lg.jp/o180080/shochugakko/sukusuku/r8_monndai.html